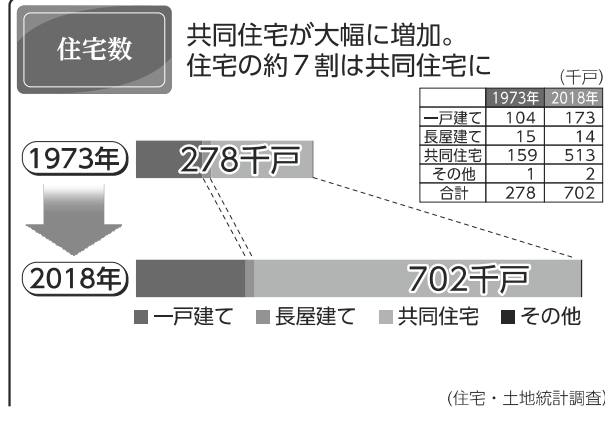
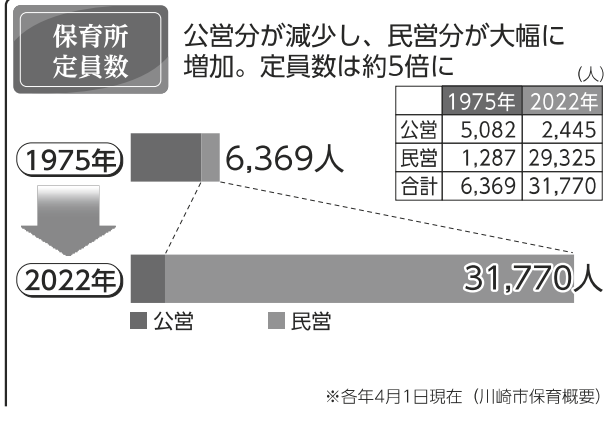
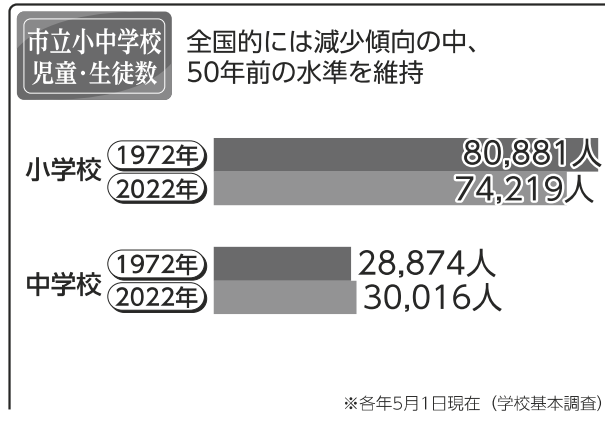
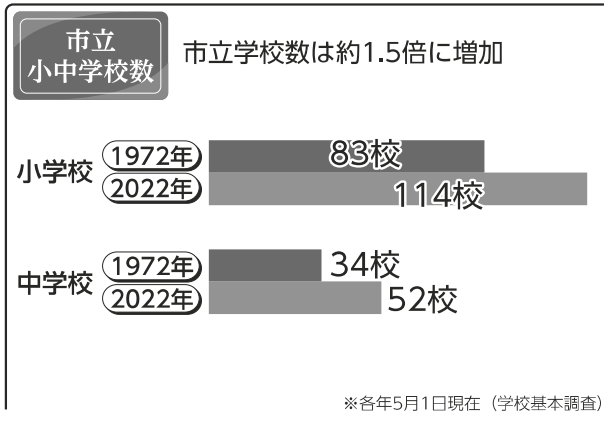
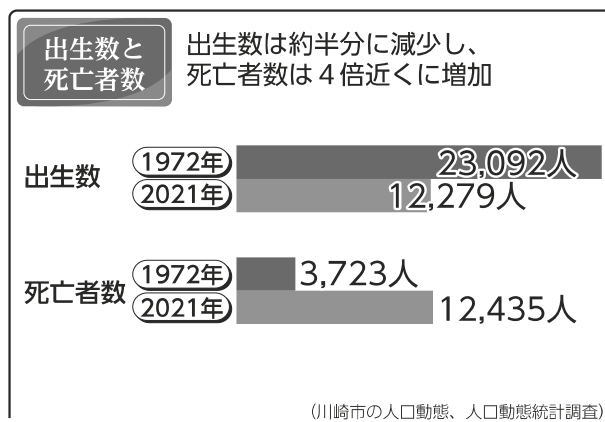
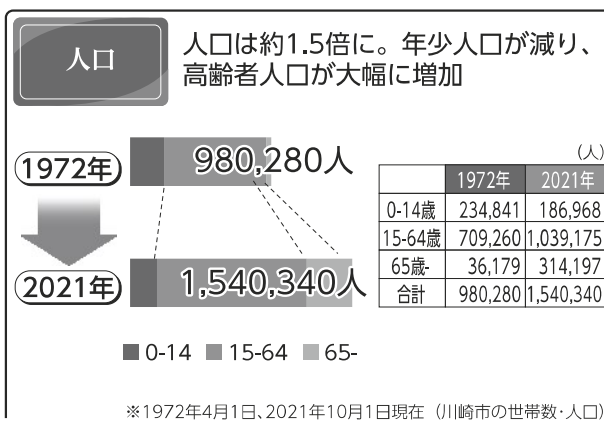


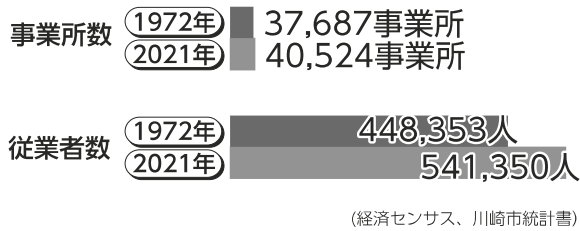
# 徹底データ比較！

## 1972年 VS 2022年

ここでは、50年間に様々な視点から比較できるように、幅広い項目を選定し、1972年と2022年のデータ等を対比的にまとめた。当時の物価は、都営バス運賃が30円、カレーライス1食分が230円、ワンルーム賃貸料が月12,500円程度だったという。  
 なお、データは出来る限り1972年と2022年のものを使用し、統計上入手できなかったものについては近い年のデータを用いている。



**事業所数、従業者数** 産業構造転換がありながら事業所数、従業者数ともに増加



**上位3業種** 製造業が減少し、卸売業や医療、福祉が増加

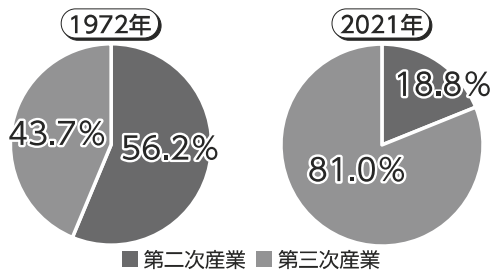
事業所数	1972年		2021年	
	1位	卸売業、小売業	卸売業、小売業	卸売業、小売業
2位	サービス業	サービス業	医療、福祉	医療、福祉
3位	製造業	製造業	宿泊業、飲食サービス業	宿泊業、飲食サービス業

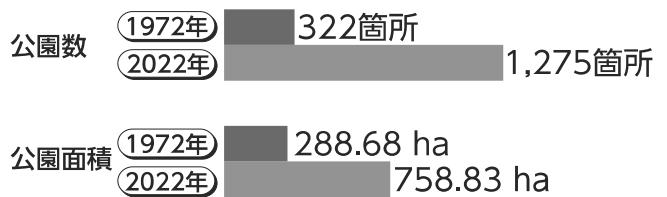
従業者数	1972年		2021年	
	1位	製造業	製造業	卸売業、小売業
2位	卸売業、小売業	卸売業、小売業	医療、福祉	医療、福祉
3位	サービス業	サービス業	製造業	製造業

(経済センサス、川崎市統計書)

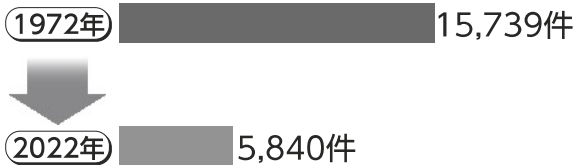
**産業分類別従業者数割合** 第三次産業の従業者数割合が大幅に増加



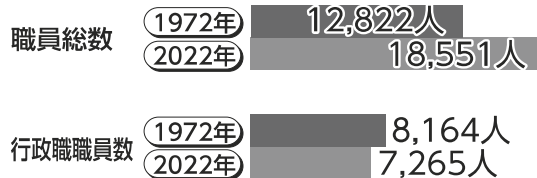
**公園の数、面積** 数、面積ともに大幅に増加



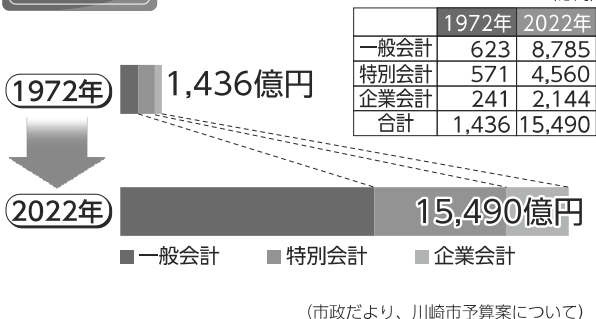
**刑法犯認知件数** 刑法犯は約1/3に



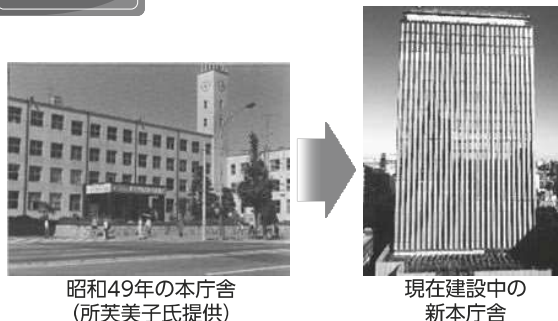
**市職員数** 県からの権限移譲により教員数が増加。行政職は減少



**市予算額** 指定都市として予算は10倍以上に (億円)



**市本庁舎** 新本庁舎は令和6(2024)年度から供用開始予定



市の機構図

50年間で市の機構も大きく変遷した。1972年当時は、職員局や公害局、局相当の企画調整室が存在した。



本図は、市長事務部局の変遷部分を中心に掲載しており、大きな変遷のない行政委員会、議会局等は省略している。

50年前の市長への手紙

「市長への手紙」は指定都市になった1972年に制度創設された。当時は、市政に対する強い期待と問題処理のスピード化を要求する内容が多かった。また1972年の年報には「人口の増加に都市設備が追い付いていない」との記述あり。この頃は高津区、宮前区周辺が市街化するタイミングで、区別では高津区、局別では土木局に関する内容が最多だった。

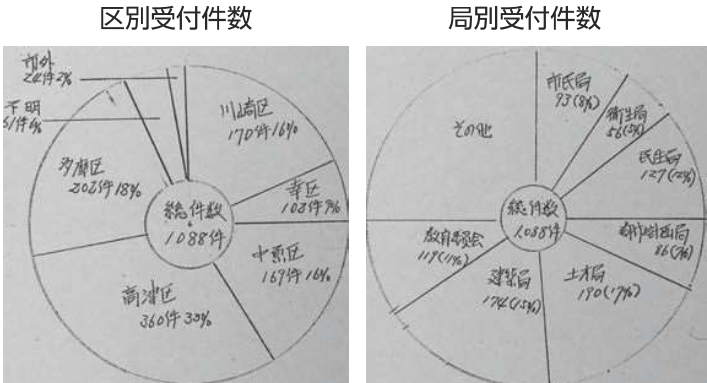
47年7月から「市長への手紙」制度を実施した結果、48年3月末まで、1,088件の提案意見が寄せられた。

内容は土木局に関する投稿が170件と全体の17%を占め、土木建築局、民生局に97%の意見が寄せられている。

市長、内容の9割は、市民が日常生活の場で感じている身近な問題を投稿しているが、市政に対し市民の強い期待と問題処理のスピード化を要求していることが、大きな傾向として、地域的には、北部地域から寄せられたものが、高津区360件(33%)、宮前区202件(18%)と両区で50%を占め、人口の増加に都市設備が追いついていない状況を示している。

今後、両区は施策の重点地域として、両区の行政需要の増大に対応する体制が要求されている。

出典：市長への手紙年報（昭和47年度）



「市長への手紙」の受け付け件数は、1972年は1,088件、2021年は4,059件であった。

2021年の主な内容は、新型コロナに関するもの（検査、ワクチン接種、学校での対応など）が多くを占めた。制度創設時は手紙形式のみであったが、現在は約4分の3がメール形式で受け付けしている。

50年前の  
市政だより

50年前の市政だよりでは、指定都市への移行を「風格ある都市へ」と表現。移行時には「4月1日 から住所に区名が必要」とし、当時の住所が何区になるのかを詳細に表示していた。また、宮前区、麻生区が誕生した1982年の市政だよりでは、各区役所・出張所の所管する具体的な町名や、必要な手続きについて詳細に説明していた。

### 1972年3月特集号

No. 305 1972年3月号 川崎市議会 川崎市議会 川崎市議会

## 4月1日、あなたのまち川崎は指定都市になります おはよう川崎市

みんなで明るく丈夫に育てましょう

**あなたと市政をつなぐ窓口**

### 4月1日から区役所ができます

川崎区役所は市役所1階に  
幸、中原、高津、多摩区役所は御幸、中原、高津、稲田支所が区役所になります。

指定都市に移ります。川崎区、幸区、中原区、高津区、多摩区は3つの区になります。幸区には、あつらひ市役所をつなぐ窓口として、それぞれ川崎区役所、幸区役所、中原区役所、高津区役所、多摩区役所が、4月1日から開設されます。二つの区役所は、あなたの毎日の暮らしに直接関係のある事務のほとんどを、中心にやっていきます。区役所は、あなたの暮らしに身近なサービスを提供する窓口になります。二つの区役所は、あなたの暮らしに身近なサービスを提供する窓口になります。二つの区役所は、あなたの暮らしに身近なサービスを提供する窓口になります。

### 川崎区、幸区、中原区、高津区、多摩区にきまる

#### 4月1日から住所に区名が必要です —区のことの問い合わせにお答え—

川崎区  
幸区  
中原区  
高津区  
多摩区

あなたの町はどの区に

川崎区  
幸区  
中原区  
高津区  
多摩区

### 1972年2月号

2月号 No. 305

## 川崎市政だより

もうまじがです。ほくも川崎市も1年生

風格ある都市へ…市民こぞって

記念行事のあらし

### 1982年7月号

## かわさき

7月号 No.490

### 市政だより

### 市民自治の充実に向けて

7月1日、宮前区と麻生区が誕生

いかがでしたか？

50年という年月で見ると大きな変化が生じていることがデータからもわかるとおもいます。社会状況の変化が影響したもの、住民ニーズに対応した市の施策の積み重ねにより変化したものなど、変化の要因や背景は多種多様です。

当時の状況や変化の要因を考えると、新たな気づきや発想が生まれるかもしれません。